看護地域連携センター報告書

令和７年度

名古屋市立大学大学院看護学研究科
名古屋市立大学病院看護部
名古屋市立大学医学部附属東部医療センター看護部
名古屋市立大学医学部附属西部医療センター看護部
名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院看護部
名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院看護部
名古屋市立大学医学部附属リハビリテーション病院看護部

目　　次

Ⅰ　はじめに …… 1
Ⅱ　令和７年度事業報告 …… 2
1. なごや看護実践セミナー …… 2
1) 初めのいろは　超音波エコーハンズオンセミナー（初級編）
2) スムーズな連携のための情報共有　看看連携推進！ナースの力で患者さんの希望を叶えよう！
～なぜサマリーが必要なの？看看連携の循環を生み出す魔法の手紙～
～病院と在宅でタッグを組んで支える、ストーマ造設後の社会復帰～
3) 現場に生かせる認知症看護
4) もう困らない！せん妄対応のファーストステップ
5) オープンダイアローグの基本と体験
6) 手術前に知っておきたい基本知識
7) 臨床倫理の４分割表を使いこなす
8) ？から始まる急変予測
～あなたは患者の隠れた変化に気づくことができていますか～
9) 心不全を知ろうー地域で心不全患者を支えるためにー
10) 認知症とともに生きる人の世界を想像する
～認知症患者とのコミュニケーションに活かそう～
11) 敗血症について知ろう～痛み、発熱、呼吸困難のアセスメント
2. 看護研究のすすめ …… 13
1) 出張！研究の個別相談
2) 看護研究基礎セミナー
(1) リサーチクエスチョンのつくり方
(2) 量的研究の基礎、統計の基礎
(3) 質的研究の基礎
3. なごや看護生涯学習公開講演会 …… 21
4. 地域連携セミナー …… 25
5. 看護研究サポート …… 28
6. 昭和生涯学習センター共催講座 …… 30
7. 認知症カフェ ……34
Ⅲ　今後の課題 …… 37

Ⅰ　はじめに

名古屋市立大学看護地域連携センターでは、本学の地域への貢献をより強化するために、本年度も地域住民へのセミナーや講演会、臨床で働く看護職を対象にしたなごや看護実践セミナーや看護研究支援等、様々な活動を行いました。2025 年度も附属病院群の看護職の方々に多大なる協力を得て、なごや看護実践セミナーの数が 11 テーマに増えるなど、事業内容をさらに拡充させ、多くの参加者を見込めるよう努力を重ねました。

本センターでは 2024 年度 7 月に専任のセンター長が着任しました。2025 年度は、認知症カフェの新規事業開設に加え、個別研究相談を出張形式にするなど、新しい形での本格的な稼働を開始する年となりました。新たに名古屋市立大学医学部附属リハビリテーション病院が加わり、6 つの名市大附属病院の看護部と協力してこれまでの事業を継続することに加え、今後も新たな事業にチャレンジしていきたいと考えております。

看護地域連携センターでは、これまでも地域の方々、地域の看護職者や医療・保健・福祉職の方々と顔の見える関係を築き、様々な活動を通して、地域の皆さまと交流を図ってまいりました。2025 年度は認知症カフェの新設に伴い、地域住民の方々やいきいき支援センターの職員の皆様とも関係性を作ることができました。今後も引き続き、地域の方々と垣根のない関係を築き、研究成果の発信や最新の看護実践方法の共有、地域住民との交流など、積極的に取り組んでまいりたいと考えています。

本年度の成果は様々ではありますが、どの活動も委員が少しでも皆様のお役にたてるようにと思いながら取り組んだ活動です。以下に、今年度の活動を総括し、あわせて最後に今後に向けての課題を述べさせて頂きます。

Ⅱ　令和７年度事業報告

1. なごや看護実践セミナー

担当：久保田正和

なごや看護実践セミナーは、愛知県内を中心とした保健医療職者を対象に、より専門性を高め地域住民へのサービス寄与につなげることを目的とした地域貢献事業である。今年度はセミナー11 件を企画し開催した。開催方法は、対面７件、遠隔１件、ハイブリッド３件であり、大きな問題もなく円滑にセミナーを実施することができた。

1）事業実施の経緯

時期	内容
２月	セミナー実施の承認・検討 テーマおよびセミナー担当者募集の検討
３月	セミナー担当者募集の検討
４月	テーマおよびセミナー担当者募集開始 テーマ申込み状況の把握、教室予約
５月	全テーマの開催日程、場所決定 チラシ、チラシ配布先、配布枚数、印刷枚数の決定 参加申込方法（メール申込、名古屋市電子申請申込）の検討
６月	看護地域連携センターホームページで告知開始 参加者募集開始
７月	チラシ印刷発注 チラシ発送（病院、名古屋市保健センター、老人保健施設及び精神保健福祉センター、愛知県看護協会など） 参加受付対応およびセミナー当日の役割分担表の検討 アンケートの検討 参加受付対応およびセミナー当日の役割分担表、受講カード、アンケートの決定 受講生に受講カードの送付
８月	講師依頼状発送
９月 ～2 月	各セミナー実施 実施前：受講者の決定、受講者リスト作成、参加申込状況の報告、講師へ連絡、事務に領収書の依頼セミナー当日の委員の業務内容概要説明、配布資料印刷 実施後：アンケート集計、看護学部ホームページへ開催報告掲載 ・初めのいろは　超音波エコーハンズオンセミナー（初級編）（9/5） ・スムーズな連携のための情報共有　看看連携推進！ナースの力で患者さんの希望

	を叶えよう！～なぜサマリーが必要なの？看看連携の循環を生み出す魔法の手紙～ ～病院と在宅でタッグを組んで支える、ストーマ造設後の社会復帰～（9/27） ・現場に生かせる認知症看護（10/4） ・もう困らない！せん妄対応のファーストステップ（11/8） ・オープンダイアローグの基本と体験（11/22） ・手術前に知っておきたい基本知識（12/6） ・臨床倫理の４分割表を使いこなす（12/13） ・？から始まる急変予測～あなたは患者の隠れた変化に気づくことができていますか～（1/24） ・心不全を知ろうー地域で心不全患者を支えるためにー（2/7） ・認知症とともに生きる人の世界を想像する～認知症患者とのコミュニケーションに活かそう～（2/14） ・敗血症について知ろう～痛み、発熱、呼吸困難のアセスメント（2/28）

2）事業の実施状況

（1）初めのいろは　超音波エコーハンズオンセミナー（初級編）

講　師：中井智子（名古屋市立大学大学院看護学研究科　講師）
　　磯尾俊博（日本シグマックス株式会社）
日　時：2025 年 9 月 5 日(金)　18 時 30 分～20 時 30 分
会　場：名古屋市立大学シミュレーションセンター
参加者：4 名
参加費：2,000 円
＜内　容＞

なごや看護実践セミナー「初めのいろは　超音波エコーハンズオンセミナー（初級編）」は、本学の中井智子講師、日本シグマックス株式会社の磯尾俊博先生を講師として対面で開催された。講義では看護職が活用する POCUS（Point-of-Care Ultrasound）で何が分かるかを解説し、演習ではファントムや人体（被験者モデル 3 名）でのハンズオン体験を行った。初めてエコーを扱う参加者が多く、臓器の描出が思ったより難しいこと、プローベの当て方や走査が難しいことを実感されていた。

(2) スムーズな連携のための情報共有

看看連携推進！ナースの力で患者さんの希望を叶えよう！

～なぜサマリーが必要なの？看看連携の循環を生み出す魔法の手紙～

～病院と在宅でタッグを組んで支える、ストーマ造設後の社会復帰～

講　師：鉾之原諒（みんなのかかりつけ訪問看護ステーション）

中尾敦子（名古屋市立大学病院 皮膚・排泄ケア認定看護師）

鬼塚真実（名古屋市立大学病院 がん看護専門看護師）

日　時：2025 年 9 月 27 日（土）14 時～17 時

会　場：名古屋市立大学看護学部棟

参加者：10 名

参加費：3,000 円

＜内　容＞

なごや看護実践セミナー「スムーズな連携のための情報共有 看看連携推進！ナースの力で患者さんの希望を叶えよう！」は、みんなのかかりつけ訪問看護ステーションの鉾之原諒先生、名古屋市立大学病院皮膚・排泄ケア認定看護師の中尾敦子先生、名古屋市立大学病院がん看護専門看護師の鬼塚真実先生を講師として対面で開催された。講義では「サマリーは患者さんの希望をかなえるための魔法の手紙である」との考え方が提示され、実際にサマリーを通じて情報共有がなされたことで、患者の希望に沿った援助が可能となった事例を交えて講義をしていただいた。また、訪問看護の現場で対応する機会が多いストーマケアや皮膚トラブルへの対処方法について、具体的な事例を示しながら解説をして頂いた。講義、事例検討、フリーディスカッションを通じて、病院と訪問看護の現場それぞれの状況を共有することができ、充実したセミナーとなった。

（3）現場に生かせる認知症看護

講　師：蟹江梓（みらい光生病院 認知症看護認定看護師）
日　時：2025 年 10 月 4 日（土）13 時～16 時
会　場：名古屋市立大学看護学部棟
参加者：8 名
参加費：3,000 円

＜内　容＞

なごや看護実践セミナー「現場に生かせる認知症看護」は、みらい光生病院 認知症看護認定看護師の蟹江梓先生を講師として対面と Zoom によるハイブリットセミナー方式で開催された。講義では、1)私たちの困りごとと患者さんの困りごと 2)日本の高齢化と認知症について 3)認知症の中核症状から患者さんの困りごとを紐解く 4)4 大認知症の特徴 5)認知症者の日常生活での困りごと 6)BPSD とはなにかという内容で進められ、患者さん側の立場でなぜそうなっているのかを解説し、具体的な看護実践について説明していただいた。

（4）もう困らない！せん妄対応のファーストステップ

講　師：門井真衣（東部医療センター 老人看護専門看護師）
日　時：2025 年 11 月 8 日（土）13 時～16 時

会　場：名古屋市立大学看護学部棟
参加者：2 名
参加費：3,000 円
＜内　容＞
　なごや看護実践セミナー「もう困らない！せん妄対応のファーストステップ」は、東部医療センター 老人看護専門看護師の門井真衣先生を講師として対面で開催された。講義では「１．せん妄とはなにか」「２．せん妄対策の流れ」「３．復習　せん妄クイズ！」「４．事例でイメージしてみる」「５．振り返り　明日につながるファーストステップ」と５つのセクションに分けて進められ、せん妄に対し、因子の分析に基づいた対策が行えるよう、情報一つ一つが事象の理由と対策に結びついて整理できるように説明していただいた。

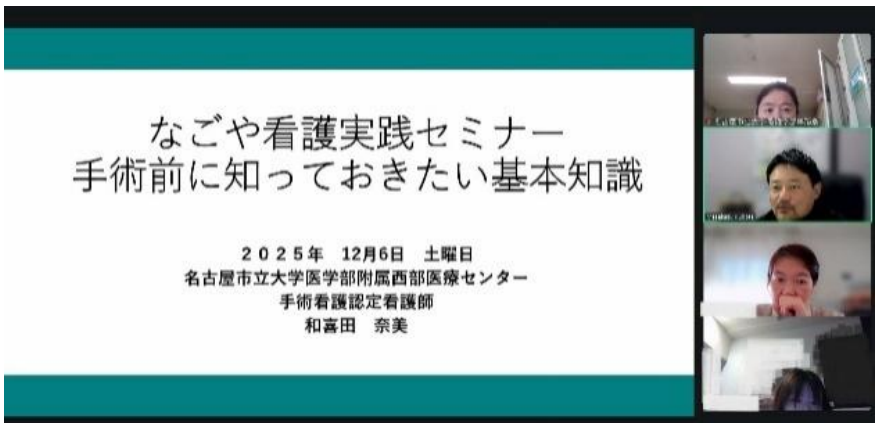
(5) オープンダイアローグの基礎と体験
講　師：門間晶子（名古屋市立大学大学院看護学研究科 教授）
日　時：2025 年 11 月 22 日（土）13 時～16 時 30 分
会　場：名古屋市立大学看護学部棟
参加者：18 名
参加費：3,000 円
＜内　容＞
　なごや看護実践セミナー「オープンダイアローグの基礎と体験」は、名古屋市立大学大学院看護学研究科 教授の門間晶子先生を講師として対面で開催された。講義では「1) オープンダイアローグ（OD)とは、理念と考え方、対話への姿勢(体験①)」「2)OD の特徴；経験の捉え方、多声性を生み出すリフレクティング(体験②)」「3)OD のイメージアップと応用の提案」のセクションに分けて進められ、オープンダイアローグの基本を学ぶことに体験的な要素を取り入れながら取り組んでいただいた。
＜受講者の感想　（セミナー終了後のアンケートより）＞
・忘れていたことがあり思い出せました。OD をもっと勉強していこうと思いました。
・オープンダイアローグの基本を学べてよかった。本を読むより実際に聞かせてもらった

り、体験できてよかった。
・非常にわかりやすく重要なポイントをたくさん教えていただけたと思います。ただリフレクティング体験の時間については、行い方の枠組みの理解が難しいと感じました。

（6）手術前に知っておきたい基本知識

講　師：和喜田奈美（西部医療センター 手術看護認定看護師）
日　時：2025 年 12 月 6 日（土）13 時～16 時
会　場：Zoom による遠隔ライブセミナー
参加者：1 名
参加費：3,000 円
＜内　容＞

なごや看護実践セミナー「手術前に知っておきたい基本知識」は、西部医療センター 手術看護認定看護師の和喜田奈美先生を講師として Zoom による遠隔ライブセミナーにて開催された。講義では「1）術前評価と患者指導」「2）麻酔と鎮痛の基礎」「3）鎮痛薬の副作用と観察ポイント」のセクションに分け、受講生の経験や現在の勤務状況を踏まえた双方向的な進行をし、受講生が日々の業務で直面している場面を想定しながら知識を結びつけられるような講義となった。



（7）臨床倫理の 4 分割表を使いこなす

第 1 部　概論、第 2 部　臨床倫理の 4 分割表を用いた事例検討会

講　師：澤田美和（名古屋市立大学大学院看護学研究科　助教）

日　時：2025 年 12 月 13 日（土）第 1 部 10 時～12 時、第 2 部 13 時～15 時

会　場：名古屋市立大学看護学部棟

第 1 部は対面と Zoom によるハイブリットセミナー方式、第 2 部は対面

参加者：第 1 部 11 名（対面 1 名、遠隔 10 名）、第 2 部 1 名

参加費：第 1 部のみ 2,000 円、第 1 部・第 2 部 4,000 円

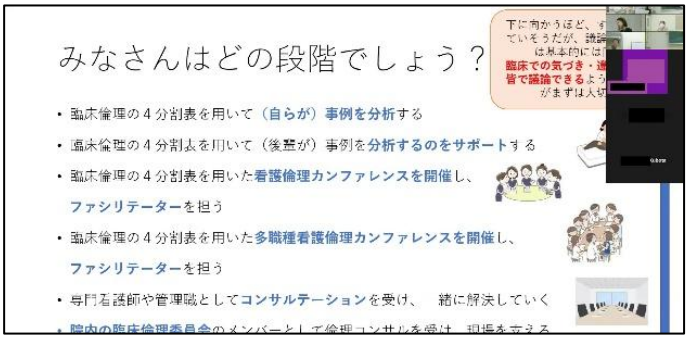
＜内　容＞

なごや看護実践セミナー「臨床倫理の 4 分割表を使いこなす」は本学の澤田美和助教が担当された。第 1 部の講義では、Jonsen の臨床倫理の 4 分割表に基づき、第 9 版の内容も追加しながら医学的適応・患者の意向・QOL・周囲の状況で示されている 28 項目に沿って、考え方のポイントを解説して頂いた。第 2 部では、臨床において経験しやすい事例が設定され、臨床倫理の 4 分割表を用いて議論が進められた。参加者は臨床現場で感じている課題に動機付けられて本セミナーに参加しており、今後の実践での活用につながる有意義なセミナーとなった。

＜受講者の感想　（セミナー終了後のアンケートより）＞

・倫理課題を言葉にすることが最初のステップであるとわかった。

・参加動機は、倫理カンファを、患者擁護立場から日常の療養生活の中でおこる様々な倫理問題を積極的に病院内で進めていくためです。



(8) なごや看護実践セミナー「？から始まる急変予測　～あなたは患者の隠れた変化に気づくことができていますか～」

講　師：寺澤涼子、加藤紀子、稲尾景子
（名古屋市立大学病院 救急看護・小児救急看護認定看護師）
日　時：2026 年 1 月 24 日（土） 9 時 30 分～15 時 00 分
会　場：名古屋市立大学　看護学部西棟　シミュレーションセンター
受講者：13 名
参加費：4,000 円

＜内　容＞

なごや看護実践セミナー「？から始まる急変予測　～あなたは患者の隠れた変化に気づくことができていますか～」は、名古屋市立大学病院、救急看護・小児救急看護認定看護師の寺澤涼子先生と加藤紀子先生、稲尾景子先生を講師として、対面で開催された。このセミナーでは、受講生が患者の急変前徴候に気づき、適切な処置を行い、医師などに報告することで、患者が防ぎえた心停止・防ぎ得た後遺障害に至らないように対応できる能力を身につけることを目的とした。今回は講義で学んだ知識を実際の現場で活用するための演習時間が設けられ，参加者の皆さんは，それぞれの臨床現場での行動や観察に照らし合わせながら熱心に演習に取り組んでいた。受講生の質問に対してタイムリーに解決をしながら進行し、急変前徴候の観察ポイントや報告について学べたことで、現場での活用や教育にいかしたいという受講生の反応を得ることができた。また，アウトプットの演習時間を長めにとることで知識の定着を図ることができ，グループディスカッションでは、それぞれ話し合った内容を発言することができていた。

＜受講者の感想　（セミナー終了後のアンケートより）＞

・演習もあり、臨床での経験と結びつける事ができた。
・今後 2 次評価やさらに詳しいアセスメントについて聞きたい。

(9) 心不全を知ろう―地域で心不全患者を支えるために―

講　師：川瀬麻友香（名古屋市立大学病院 慢性心不全看護認定看護師）
日　時：2026 年 2 月 7 日（土）9 時～12 時
会　場：名古屋市立大学看護学部棟、対面と Zoom による遠隔ライブセミナー
参加者：7 名（対面 4 名、ZOOM3 名）
参加費：3,000 円

＜内　容＞

なごや看護実践セミナー「心不全を知ろう―地域で心不全患者を支えるために―」は、名古屋市立大学病院 慢性心不全看護認定看護師の川瀬麻友香先生を講師として対面と Zoom による遠隔ライブセミナーにて開催された。心不全の概要と病態、心不全の治療、心不全の療養指導､緩和ケアについて､知識を深められるように丁寧に解説をして頂いた。今回は、昨年度に開催された日本循環器学会にて心不全の診療ガイドラインの改訂がされたため、新しいガイドラインに合わせて昨年度までの内容を追加・修正した内容をご講義していただいた。また、心不全における緩和ケアの現状とともに講師が実際に経験された

症例について説明をして頂いた。

＜受講者の感想　（セミナー終了後のアンケートより）＞

・救急外来で働いており、心不全増悪の患者さんが来ることが多いので、今回学んだことを救急での看護に活かしていきたいと思います。
・訪問看護をしているので、とても高齢の方が多く、心不全療養で指導がとても大切で、しっかりアセスメントも指導を行っていきたいと思いました。
・所属は、循環器病棟ではありません。ですが現在プライマリーが心不全の患者であり心不全手帳を用いて指導をしています。今日の学びを生かし患者に必要なことを考えた指導が続けられるようにします。
・講義の中で新たに知ることも多く勉強になりました。
・説明がとても丁寧で、パワーポイントも見やすく、大変わかりやすかったです。

（10）認知症とともに生きる人の世界を想像する～認知症患者とのコミュニケーションに活かそう～

講　師：藤田奈那（名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 認知症看護認定看護師）
日　時：2026 年 2 月 14 日（土）14 時～17 時
会　場：名古屋市立大学看護学部棟
参加者：4 名
参加費：3,000 円

＜内　容＞

なごや看護実践セミナー「認知症とともに生きる人の世界を想像する～認知症患者とのコミュニケーションに活かそう～」は、名古屋市立大学医学部附属西部医療センター、認知症看護認定看護師の藤田奈那先生を講師として対面形式にて開催された。「認知症患者が日々感じている世界を知ることができる」、「認知症患者とのコミュニケーション方法を理解することができる」ことを目標に認知症の概要と病態から具体的なコミュニケーションのポイントなどについて丁寧に解説をして頂いた。グループワークも取り入れられ、参加者の満足度が非常に高いセミナーとなった。

＜受講者の感想　（セミナー終了後のアンケートより）＞

・認知症の患者さんでなく、1 人の人として看護していくことが大切であると学ぶことができた。
・とてもわかりやすかったです。
・具体的な症例などを使われてよかった。映像をみせてもらったりして考えることができた。
・自分は否定したつもりはなく、事実を伝えたつもりであっても否定していたことに気がつくことができた。
・認知症の利用者さんは多いので、より理解が深まりました。
・自分の常の声かけ行動をふり返り考えることができたので認知症の方と接するときに少し立ち止まり考えてから声をかけ会話をしてみたい。

（11）敗血症について知ろう～痛み、発熱、呼吸困難のアセスメント

講　師：石井房代（名古屋市立大学病院 集中ケア認定看護師）
　　清水真名美（名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院　救急看護認定看護師）
日　時：2026 年 2 月 28 日（土）14 時～17 時
会　場：名古屋市立大学看護学部棟
参加者：17 名
参加費：3,000 円

＜内　容＞

なごや看護実践セミナー「敗血症について知ろう～痛み、発熱、呼吸困難のアセスメント」は、名古屋市立大学病院、集中ケア認定看護師の石井房代先生、名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院、救急看護認定看護師の清水真名美先生を講師として対面形式にて開催された。「敗血症の病態を理解し、臨床におけるフィジカルアセスメントに役立てる」、「防ぎ得た後遺障害、心肺停止を回避する」ことを目的に敗血症の病態や診断、重症度分

類などについて丁寧に解説をして頂いた。また、随時グループワークや演習が行われ、参加者の満足度が非常に高いセミナーとなった。

＜受講者の感想　（セミナー終了後のアンケートより）＞

・グループワークなど、他の受講者との交流があるならばお知らせにそう書いといてほしかった。周りは知り合い同志で来ていたようで、気まずい。

・解剖、病態からという風なことで敗血症になっているのかわかりやすかった。呼吸について難しかった。

3）課　題

今年度は、11 件のセミナーを企画し開催した。開催方法は、対面 7 件、ハイブリッド 3 件、遠隔 1 件であった。今年度の全セミナーの参加者数は 91 名であり、昨年度の 54 名と比較して大幅に増加した。昨年度より、HP、インスタグラム、フェイスブックによる広報に力を入れ、参加者を募ったことが功を奏したと考えられる。しかしながら、まだ定員は満たされていないため、引き続き広報に力を入れるとともに、次年度からは参加費を無料にする試みをする。参加費に関しては、参加者や附属病院群からの要望もあった。それに伴い、講師の教材費も支出しない方針である。

各セミナーの内容は丁寧でわかりやすかったため、いずれのセミナーも高い評価であった。次年度については、引き続き、関心の高いテーマ設定、広報の対象範囲の検討、広報の強化などを通して、多くの看護職が参加でき、満足してもらえるセミナーの開催を目指していきたい。

2. 看護研究のすすめ

担当：久保田正和

本事業は、(1) 出張！研究の個別相談、(2) 看護研究基礎セミナーの2つの活動から構成され、主に看護職者の研究活動を推進する目的にて開催している。研究する面白さを発見し、研究の興味を高めることで、看護研究を目指す人材の育成に寄与することを期待する事業である。

1) 事業実施の経緯

時期	内容
12 月	次年度開催時期、方法、内容の検討
1 月	次年度開催の検討
2 月	次年度チラシ案、担当者、開催時期の検討
3 月	次年度チラシ案、タイトルの決定 「出張！研究の個別相談」チラシ発送（病院、名古屋市保健センター、老人保健施設及び精神保健福祉センター、愛知県看護協会など） 看護地域連携センターホームページ、インスタグラム、フェイスブックで告知開始 参加者募集開始
4 月	チラシ、チラシ配布先、配布枚数、印刷枚数の決定 場所決定、教室予約
5 月	「看護研究基礎セミナー」「出張！研究の個別相談」チラシ発送（病院、名古屋市保健センター、老人保健施設及び精神保健福祉センター、愛知県看護協会など **【出張！研究の個別相談】**5 月 14 日（水）みどり市民病院
6 月	アンケートの決定 看護研究基礎セミナー：申込者へメール配信
7 月	業務マニュアルの決定 **【出張！研究の個別相談】7 月 30 日**（水）みらい光生病院
5 月 ～7 月	看護研究基礎セミナー実施 実施前：受講者の決定、受講者リスト作成、参加申込状況の報告、講師へ連絡、セミナー当日の委員の業務内容概要説明、配布資料印刷 実施後：アンケート集計、看護学部ホームページへ開催報告掲載 **【看護研究基礎セミナー】** ・「リサーチクエスチョンのつくり方」（5/21） ・「量的研究の基礎、統計の基礎」（6/25） ・「質的研究の基本」（7/16）
9 月	**【出張！研究の個別相談】**9 月 3 日（水）東部医療センター
11 月	「研究の個別相談」チラシ案の検討

	【出張！研究の個別相談】11 月 26 日（水）西部医療センター
12 月	次年度開催案の検討
1 月	次年度開催案の検討 【出張！研究の個別相談】1 月 21 日（水）名古屋市立大学病院
2 月	次年度開催案の検討
3 月	次年度開催の検討 【出張！研究の個別相談】3 月 11 日（水）名古屋市立大学看護学部

2）事業の実施状況

【出張！研究の個別相談】

実施日は、5 月 14 日、7 月 30 日、9 月 3 日、11 月 26 日、1 月 21 日、3 月 11 日の 10～16 時で事前予約の合計 6 日間を予定した。

講師は久保田正和センター長と今福輪太郎副センター長が対応した。

結果、5 月 14 日は 4 件、7 月 30 日は 4 件、9 月 3 日は 1 件、11 月 26 日は 1 件、1 月 21 日は 2 件、3 月 11 日は 0 件であった。

〈アンケート結果〉

5 月 14 日は 4 件のうち 2 件からアンケートの回答があった。以下に、参加者の感想の一部を掲載する。

・計画をしていく段階での悩みを明確にすることが出来ました。方向性を決めていたはずが、話してみると曖昧になってしまっているなと気付く機会になりました。

・生徒の分かりにくい説明を理解し、適切なアドバイスをいただき、ありがとうございました。相談中は終始、穏やかな雰囲気でとても相談しやすかったです。特にアンケートの内容やアンケートを取る時期については、とても参考になりました。今後もサポートしていただきたいと思いました。

7 月 30 日は 4 件のうち 1 件からアンケートの回答があった。以下に、参加者の感想の一部を掲載する。

・自施設の特徴について具体的に考えていなかったので、そういうところも踏まえて研究に生かしていきたい。また、インタビューを通して、看護師や介護士の意識を明らかにしていく、というところまで考えがいたってなかったので勉強になった。

9 月 3 日は 1 件のうち 1 件からアンケートの回答があった。以下に、参加者の感想の一部を掲載する。

・漠然とした思いだけで相談させていただいたのですが、研究の道筋というかを導いていただきました。何から動けば良いのかわかりませんでしたが、まずは文献検索というように明確なアドバイスをいただき大変ありがたかったです。

11 月 26 日は 1 件のうち 1 件からアンケートの回答があった。以下に、参加者の感想の一部を掲載する。

・どのような内容が必要なのか詳しく知ることが出来た。

1 月 21 日は 2 件のうち 2 件からアンケートの回答があった。以下に、参加者の感想の

一部を掲載する。
・相談する場所がなく困っていたので利用させて頂きました。方向性が決まらずどうにもならない状態でしたが一緒に考えて頂き助かりました。
・項目ごとに困っている点を相談でき、具体例を出してもらえたので参考になった。

【看護研究基礎セミナー】
(1)「リサーチクエスチョンのつくり方」
講　　師：久保田正和（名古屋市立大学大学院看護学研究科・教授）
日　　時：令和 7 年 5 月 21 日（水）10 時～12 時
場　　所：名古屋市立大学看護学部棟
募集人数：制限なし
申 込 者：10 名
参 加 者：　4 名
参 加 費：2,000 円

〈内　容〉
（1）導入
テーマは、「リサーチクエスチョンのつくり方」であったが、まずは受講者の研究経験をお聞きして、「研究とは」から説明を行った。具体的には「なぜ研究が必要なのか」、「研究をどのように開始すれば良いのか」、「研究への取り組み方」などを話した。
次に研究開始の動機は何でも良い事、臨床の現場にはたくさんのテーマが落ちていることを話し、今後は看護師として「看護学」を研究によって発展させていく責務があること

をお伝えした。

研究のエビデンスにはヒエラルキーがある。臨床の現場では、伝統や習慣、権威、経験などが重視されてきたが、それでは臨床疑問は解決されない。エビデンスのヒエラルキーのトップにあるのは厳密な科学的方法による研究である。これからは厳密な研究結果を意識して看護を実践していく必要がある。

（2）リサーチクエスチョンのつくり方

臨床疑問をいかにリサーチクエスチョンに構造化するかを説明した。具体的には PI（E）CO を使って構造化する方法である。臨床疑問は自分の気になるテーマ、何でもよい、とにかくメモを取り整理をしておくことが大切である。その上で、臨床疑問を文章にしてみて、PICO にあてはめていく。この構造化の手法を使って臨床疑問を明確にすることがクリニカルクエスチョンを実行可能なリサーチクエスチョンに作り上げることに繋がることを説明した。また、良い研究テーマが満たすべき FINER の基準を示し、説明した。

（3）演習

PICO と FINER を使って、それぞれ自身で書いてきた臨床疑問をリサーチクエスチョンに構造化する演習を行った。具体的には 2 人一組になって構造化の演習、ディスカッションを行って、発表まで行った。

〈今回のセミナーにおける受講者の反応・考察〉

受講者全員が「わかりやすかった」と回答した。具体的にはリサーチクエスチョンの構造化についてよく分かったとのことであった。また、これから何をやったら良いかが明確になったとの感想もあった。

研究の初心者を想定して、分かりやすい説明を心掛けた。また、実際に自分の臨床疑問を持ってきていただき、リサーチクエスチョンの構造化を演習したことで理解が深まったと考えられる。全員が関心を持って受講されており充実したセミナーとなった。

〈アンケート結果〉

参加者 4 名の内 4 名からアンケートの回答があった。内容はわかりやすかったかは、4 名全員が「わかりやすかった」と回答した。また、セミナーの内容は今後にいかすことができるものかは、「そう思う」4 名と回答した。

以下に、参加者の感想の一部を掲載する。

・臨床疑問、看護研究を具体的にどのように考えていけば良いのかがよく分かりました。
・看護ではない分野の方や日々探求している方にも伝わる内容で受講できて本当によかったです。
・自分が今から何をやったらいいかが明確になった。

(2)「量的研究の基礎、統計の基礎」

講　　師：久保田正和（名古屋市立大学大学院看護学研究科・教授）
日　　時：令和 7 年 6 月 25 日（水）10 時 00 分～12 時 20 分
場　　所：名古屋市立大学看護学部棟
募集人数：なし
参 加 者：13 名
参 加 費：2,000 円

〈内　容〉

(1) 導入

参加者に対し、本日のセミナーの目標、受講の目的を聞いた。今日のセミナーで重要なことは方法論を学ぶことではなく、ベースにある考え方や基礎的な知識を得ることであることを伝えた。

(2) 量的研究の基礎、統計の基礎

記述統計の重要性を話した。研究初学者は推測統計、方法論に視点が向きがちである。しかし、まずはデータを概観すること、グラフの作成等で視覚化することから始める。記述統計を大事にすることを伝えた。その後、推測統計学の考え方、統計の基本的な知識を教授した。中央値と平均値について、その意味と使い分けを学習した。使い分けを誤ると適切にデータを示すことができないため重要な知識である。質問紙については時間の関係上詳しく話すことができなかったが、基本的には自分が聞きたいことを聞いて良い。しかし、妥当性は担保されるべきなので、その点が難しい、尺度を用いるのは有効である。

(3) 演習

ヒストグラムの作成、平均値や中央値の算定、標準偏差の意味、有意差検定を理解するために参加者自身が手を動かして演習形式で授業を行った。普段、漠然と標準偏差や有意差を見ていると思うが、その意味を理解しておくことが重要である。

〈今回のセミナーにおける受講者の反応・考察〉

「わかりやすかった」と「難しかった」が約半数ずつであった。難易度としては易しいセミナーであるが、元々統計学に対し、苦手意識をもつ研究初学者は多い。限られた時間内で、コミュニケーションを取りながら行ったが、受講者のレベルを踏まえた上で今後のセミナーの内容を考えていく。授業の中に演習を取り入れたことは良かった。ハイブリッド開催で、zoom の参加者に質問をしていたところ、回答をするのが苦痛という理由で途中退室があった。双方向で授業を行うことが受講者の理解を深める一つの手段ではあるが、今後対応を考えたい。

〈アンケート結果〉

参加者 13 名のうち 9 名からアンケートの回答があった。セミナーの内容はわかりやすかったかは、「わかりやすかった」4 名、「どちらかといえば難しかった」3 名、「どちらかといえばわかりやすかった」1 名、「難しかった」1 名、であった。また、セミナーの内容は今後にいかすことができるものかは、「そう思う」6 名、「どちらかといえばそう思う」2 名、「どちらかといえばそう思わない」1 名と回答した。

以下に、参加者の感想の一部を掲載する。

・何度も聞きたい。もっと長くていい。
・統計手法、アンケート（質問紙）の校正の仕方が知れてよかった。
・いかすことができると思うが、実際にできるか不安になった。
・私は医療に直接関わるものではないのですが、今後に活かせる知識と手法が学べてとてもよかったです。
・統計の基礎を学ぶことができて良かった。基礎的な考えが必要であることもわかった。初心者には難しかったが、いかせるように（今回の学びを）したい。

(3)「質的研究の基礎」

講　　師：大橋麗子（名古屋市立大学大学院看護学研究科・准教授）
日　　時：令和 7 年 7 月 16 日（水）10 時 00 分～15 時 00 分
場　　所：名古屋市立大学看護学部棟
　　ハイブリッド形式
募集人数：20 名
参 加 者：4 名（対面 2 名、Zoom2 名）
参 加 費：4,000 円

〈内　容〉

1）講義内容項目

(1)　質的研究とは
(2)　質的研究のプロセス
(3)　アイディアからリサーチクエスチョンへ
(4)　研究方法を考える
(5)　データ収集
(6)　データ分析
(7)　コード化、カテゴリ化を体験してみよう！（演習）
(8)　分析結果の解釈
(9)　質的研究の「質」を確保するために

2）講義概要

研究計画、実施、発表の実際行う順序に沿って、講義を構成した。

まずは、質的研究にはどのような特徴があるのか、どのようなリサーチクエスチョンに適しているのか、量的研究との違いはなにかについて説明を行った。質的研究の方法論については、前段階である日常の実践での気づきをどのようにリサーチクエスチョンに昇華させるのかについても説明を行った。研究方法については、実際の研究論文を示しながら、各研究方法の特徴や留意点、難易度を講義し、特に初学者が取り組みやすい研究方法については具体的に紹介した。データ収集方法については、基礎的事項をおさえながら、インタビューによるデータ収集方法について具体例を紹介し、実際のデータ収集における注意点などを講義した。データ分析については、コード化、カテゴリ化について説明後、実際のデータを用いて演習を行い、参加者にコード化、カテゴリ化を体験していただいた。演習については、講師が行ったコード化、カテゴリ化、図解化、ストーリライ

ンの例を示した。最後に、質的研究の「質」を確保するための視点と方法について講義を行った。講義とあわせて、看護研究サポート、個別看護研究サポート、出張研究セミナーの案内も行い、どのタイミングでどのような人が利用すると効果的かについても説明した。

〈今回のセミナーにおける受講者の反応・考察〉

今回は、参加者が前回の 1/3 以下の 4 名と小人数であった。前回とは、講師、内容、広報を変更しておらず、異なるのは開催日程を前回は 9 月にしたことである。開催時期の影響があるのかもしれない。

参加者の状況としては、研究をしたいと思っているが踏み出せない方、施設内で研究支援を行う立場にある方などであった。アンケート結果からは、「わかりやすかった・どちらかといえばわかりやすかった」「今後の活動に活かせる」との評価を得ており、参加者のニーズにあったセミナーを実施できたと考える。例年、個別の質問がかなり活発にあるが、今回は人数が少ないからか、質問が少なかった。

〈アンケート結果〉

参加者 4 名のうち、3 名からアンケートの回答があった。セミナーの内容はわかりやすかったかは、「わかりやすかった」1 名、「どちらかといえばわかりやすかった」2 名であった。また、セミナーの内容は今後にいかすことができるものかは、「そう思う」2 名、「どちらかといえばそう思う」1 名と回答した。

以下に、参加者の感想の一部を掲載する。

・質的研究がわかっていなかったので、わかりやすく教えて頂きました。

・研究を行う時の流れや方法について学ぶことができ活かせていきたいと思いました。

3）課　題

今年度は、研究の個別相談を「出張！研究の個別相談」に変更した。場所は看護学部棟と 5 つの附属病院に設定した。6 回の開催で 12 件の相談回数があり、昨年度の 3 件より大幅に増加したものの、想定よりは少ない数であった。しかしながら、学会発表に向けた相談など、以前より高度な質問が増えた印象がある。一方で、研究の基礎的な内容に関する相談も多く、質問内容の難易度はバラエティに富んでいるため、柔軟な対応が必要である。参加者からのアンケート結果は、概ね満足度が高いことが示された。

看護研究基礎セミナーでは「リサーチクエスチョンのつくり方」4 名、「量的研究の基礎、統計の基礎」13 名、「質的研究の基礎」4 名の参加があった。アンケート結果からは、概ね理解できた、分かりやすかった等の意見が多かったが、難しかったとの意見が散見され、対象者の研究理解度レベルによる参加者の設定が難しい。基本的には基礎的な知識を教授するので、次年度以降、より明確に「基礎的な内容」であることを打ち出す。

来年度も引き続き「出張！研究の個別相談」を継続するが、実施回数は 6 つの附属病院に希望を取り設定する。場合によっては複数回出張することも考えられる。また、看護研究基礎セミナーについては、参加者数が想定よりも少ないため、次年度より無料化し参加者数の増加を図る。

３．なごや看護生涯学習公開講演会

担当：久保田正和

「なごや看護生涯学習公開講演会」は、地域の保健医療職者が求めている知識、情報、話題などを提供し、結果として市民の皆様に対する医療の質向上に貢献することを目的としている。その時々の医療情勢をふまえてテーマを選定し、その分野で活躍中の講師を招聘し、毎年１回開催している。また、2019 年度より、なごや看護学会との共催事業となっている。

1）事業実施の経緯

時期	内容
5 月	テーマ・講師、開催時期について検討 会場予約
6 月	講師・テーマについて検討
7 月	講師派遣依頼の報告
8 月	看護地域連携センターホームページ告知開始
9 月	チラシ（案）の検討 チラシ送付先・印刷枚数の検討 印刷発注（600 部）
10 月	アンケート内容の確認 チラシ納品、チラシ発送 講師への最終確認書類の発送
11 月	参加申込状況、準備状況の確認、当日役割分担の検討 参加申し込み状況、準備状況の確認
12 月	公開講演会実施 実施報告、アンケート集計結果報告

2）事業の実施内容

テーマ：認知症になっても自立した生活を長く保つために
　　～認知症専門医の立場から～
講　師：木下彩栄氏（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻　教授）
日　時：令和 7 年 12 月 5 日（金）18:00～19:30
場　所：名古屋市立大学病院　大ホール
参加費：なごや看護学会会員 500 円　非会員 1,000 円
参加者：70 名

〈内　容〉

今年度は、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻教授の木下彩栄先生に、「認知症になっても自立した生活を長く保つために～認知症専門医の立場から～」というタイトルでご講演をいただいた。内容は以下のとおりである。

本邦では、現在、認知症とその前段階の軽度認知障害（MCI）の人を合わせると約 1000 万人になると推計されている。これは、高齢者の約 30%を占めるとされ、高齢化に伴い喫緊の課題となっている。本講演では以下の３つのテーマで話を進める。

① 認知症の大半を占めるアルツハイマー型認知症については、約２年前に新規治療法が導入された。これは、アルツハイマー病の原因物質にアプローチするというこれまでにない性質の薬剤である。この薬剤を使用できる方は、ごく初期のアルツハイマー病の方のみで、早期発見がますます重要になった。本講演では、この治療法によって大きく変わった認知症医療について話をする。

② 認知症は、症状が出る 20 年以上も前から徐々に進行する病態であることが分かってきた。それでは、無症状な時期からどんな生活をしたら良いのだろうか？現在わかっている「予防に役立つ生活習慣」について科学的なエビデンスを交えて話をする。

③ 2024 年に認知症基本法が施行され、認知症の方も尊厳を持って住み慣れた地域で暮していただくことが大きなテーマとなっている。認知症を発症した場合、家庭内外でどのような点に気を付ければ安心・安全に暮らしていけるのかということについて生活面から話をする。

3）参加者アンケート結果

参加者 70 名のうち、63 名からアンケートの回答があった(回収率 90.0%)。講演内容について、「分かりやすかった」もしくは「どちらかといえば分かりやすかった」と答えた人は 62 名（98.4%）とわかりやすさについて高い評価が得られた。

以下に、参加者の感想の一部を掲載する。

・アルツハイマー病が起こる解剖や、治療薬、実際の統計など具体的に説明してくださり、認知症発症から予防まで理解することができた。
・アルツハイマー病についてとてもわかりやすく、また早期の治療の必要性も理解できました。
・認知症の総論から最新の研究までとてもわかりやすい講演でした。
・認知症の最新治療から自治体の取り組みまで幅広い知識を得られました。大変勉強になりました。最新研究のことも知ることができてよかったです。
・早期に治療を開始する重要性。
・認知症にも早期発見のポイントがあり、早期発見、早期治療をすることで改善できるものであるということは意外でした。新しい発見ができ大変参考になりました。
・MCI ってどう気づくのと思っていた所がわかりすごく良かったと思った。
・大変わかりやすく勉強になりました。来てよかったです。アミロイドβとかタウタンパクなどとてもわかりやすかったです。ありがとうございました。
・多因子介入の大切さを理解出来た。
・「自分で読んで書いて考える」大事だなと思いました。
・レカネマブとドナネマブのちがい。ドナネマブで AB が消えても認知機能が上がる（戻る）わけではないが進行が緩やかになる＝進行を止められるわけではない。
・認知症をただの物わすれとしか考えてなかった。
・「もの忘れ」と聞きがちだが、「すぐ忘れ」と言いかえるとわかりやすいと思った。
・重要ポイントを繰り返し説明していただけて良かった。
・かなり詳しい理論、研究事例の説明があり良かったです。プロジェクターの資料が詳しかった（印刷物は少なく、どうかな？とは思いましたが)。
・映し出された文字を書きとることが難しく資料にあると良かったなと思った。
・とても聞きやすい声、トーンで具体例をスライドで示しながらの講演でとてもよかった。
・話が入ってきやすい説明の仕方と資料だった。
・一般向けに平易な言葉を使って下さっていた。
・例が多かったため医療職じゃない自分でも分かりやすく話が理解できた。
・スライドも多くわかりやすかったです。
・訪問看護で認知症を中心にしていますので、とても役立ちます。
・現在、認知症の方が当院の利用は多いと思うが、重度の方が多いので支援の部分での対応が役立ちそう。
・認知症の患者さんの検査で治療について聞かれることがあるので新しい情報を得られて嬉しいです。
・患者さんに対応するときに非常に役立ちます。
・患者さんとの日常会話に取り入れたり、退院支援の際にご家族と認知症を進行させないために生活や受診をすすめるなどいかしていきたい。
・患者と接する上で何度も同じ話をされるので、その人たちに対してどのように関わるかを学ぶことができた。
・認知症の診断がつく前の利用者さんに関わる機会も多いので、今回の講演内容を伝えていきたい。

・コミュニケーションを行い、気づきを大切にし、認知症を気づけるようになりたい。
・早い時期から運動、栄養、脳トレなど若い世代では読書、文書を書く、などで予防効果があるということで明日から実践に取り入れていけるようにしたいです。
・認知症の方と接する際に、早期治療や認知機能の維持の啓発をしたいと思いました。
・いろいろな面から認知症に備えることを広めていきたいです。
・在宅に訪問する鍼灸師をしているので、直接的に役立つ。
・仕事と言うことでなく、自分のまわりの人達との生活に多いにいかせると思います。
・仕事に生かすことはないが、個人として生かせると思います。
・まだ大学生だが、今後医療系のメーカーに入って必ず役立つと感じた。
・仕事よりも、家族の認知症の対応や、自分自身の予防に活用したい。
・高齢の方が多い社会その人に応じた対応にいかしたい。
・あわてる家族への説明ができそうです。
・仕事ではないが身近に軽度認知症や予備軍と思われる人と接する機会があるので役に立てられると思う。

4）課　題

本年度は、受講者が 70 名程度で想定よりも少ない人数であった。本講演会開催の前週に同じ場所で「認知症と生活」をテーマにした講演会があり影響はあったと思われる。本講演会の対象は看護職をはじめとする医療、介護福祉専門職であるため、毎年、平日夕方開催をしている。講師の都合もあるが、開催日時については再考する必要がある。

アンケート結果からは、認知症への関心が高く、仕事のみならず自分や家族の生活に活かせるとの感想が多かった。認知症専門医ならではの専門的な知識に加え、生活への影響を丁寧に講演されたことから、好評のうちに終えることができた。

4. 地域連携セミナー

担当：大橋麗子、久保田正和

「地域連携セミナー」は、市民の皆様と保健医療福祉関連職種が連携して取り組むべき社会的な問題を取り上げ開催している。さまざまな立場の人が同じテーマについて考えることで、解決の糸口や新たな方策の発見につながることを期待する事業である。

1）事業実施の経緯

時期	内容
10 月	テーマ及び講師候補の検討
11 月	講演テーマ、日程を講師と交渉 会場の決定 知の広場掲載依頼
12 月	チラシ案の作成と検討 チラシ送付先の検討 共催事業の審議 開催方法の検討 広報なごや 3 月号への掲載依頼
1 月	チラシ案の作成と検討 チラシ送付先の検討
2 月	チラシ原稿の決定 看護実践研究センターホームページで募集告知
3 月	チラシ原稿最終確認、印刷発注
4 月	チラシ発送 参加者募集開始（名古屋市電子申請、メール） 参加申込者への参加の可否連絡 プレスリリース 全学 SNS、看護学研究科 Instagram での広報 地下鉄駅へのポスター掲示
5 月	講師へ当日資料等の最終連絡
6 月	アンケート、役割分担の決定 遠隔配信業者との打合せ 事前受付リスト作成開始 領収書発行の依頼 配布資料とアンケートの印刷

2）事業の実施内容

テーマ：不登校　わかるとかわる～理解と対応の基本～

講　師：加藤善一郎氏　（岐阜大学大学院医学系研究科　小児科学
岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科　構造医学　教授）

日　時：2025 年 7 月 13 日（土）14 時 00 分～16 時 00 分

場　所：名古屋市立大学病院　3 階大ホール

参加費：1,000 円

参加者：114 名（対面：69 名、遠隔 45 名）、事前申込者：123 名

〈内　容〉

不登校のある子どもと親の診療にあたってこられた加藤先生の講演では、第 1 部に、不登校の現状と要因、教育と医療の連携として求められる支援について、第 2 部には、受診から卒業へ、段階と対応について、具体的事例を示しながら分かりやすいご講演により、不登校にある子どもの理解と支援の方法について理解を深めることができた。

3）参加者アンケート結果

参加者 114 名のうち、63 名から回答があった（回収率 55.3%）。回答者は、学校教員 15 名、看護師 10 名、心理士 5 名、医師 4 名等であった。セミナーの参加動機は、「職務にいかす」31 名（49.2%）が最も多く、次に「興味関心のあるテーマであった」19 名（30.2%）、「必要に迫られている」9 名（14.3%）であった。

以下に参加者の感想の一部を記す。

・(当事者家族) 不登校歴が長くなると暗いトンネルの中にいるようで、今日の加藤先生のお話しが一筋の光にも感じました。タイトルにもあるように不登校わかるとかわる、1番大事な基本を分かりやすく教えていただき参加して良かったなと思いました。
・(専門職) とても胸に落ち、具体的に活かせることがありました。また、自身が日々行っている支援でいいんだと背中を押していただいた感覚があり、明日からまた子どもたちに関わっていこうとエネルギーをいただきました。
・(専門職)「わかるとかわる」というタイトルどおり、正しく理解すれば、自ずと対応できることがよくわかりました。逆に「わからずに(やみくもに)かえる」ことで、子どもを追い詰めることになるのか、実践でのエビデンスも示していただき、納得できました。

3) 課　題

・セミナーテーマから、教育委員会、名古屋市内学校、教員養成大学などにも対象を広げて広報を行った。また、大学公式 SNS での広報も依頼する等広報活動に努めた。
・「不登校」というテーマから、当事者家族が参加するために、自宅から受講可能な遠隔開催を導入した。対面に近い人数の参加があり、今後もテーマに合わせて活用したい。
・参加費を 500 円から 1,000 円に上げたことが、同じ講師で開催した昨年度よりも参加者が減少した要因である可能性が考えられる。適当な参加費についても再度検討したい。
・事後アンケートでは、セミナーの満足度、今後への活用度のどちらも高く、肯定的な感想も多く寄せられた。専門職および市民のニーズに合致したセミナーであった考える。

5. 看護研究サポート

担当：今福輪太郎、大橋麗子、松井幸子、熊谷千景、森田麗、石川裕子、桂田久子、
岡亜澄、山吹美貴

「看護研究サポート」は、看護職者が個人またはグループで行う看護研究に対して、看護学研究科の教員がそのプロセスや研究成果の発表を支援することを目的としている。臨床の場にフィードバックできる科学的根拠に基づいた看護研究の推進を通して、よりよい看護の提供に貢献することを目指している事業である。尚、2021 年度より本事業は「なごや看護学会」との共催事業となっている。

1）事業実施の経緯

【2025 年度看護研究サポート】前期　3 件、後期　1 件

時期	内容
4 月	前期看護研究サポートの募集開始
5 月	前期看護研究サポートの募集締め切り（5/11 締め切り、3 件申込） 研究チームと教員のマッチング
6 月	前期看護研究サポートの開始
7 月	後期看護研究サポートの募集開始
8 月	前期看護サポート状況の中間確認の実施 2024 年度後期看護研究サポートの実施報告書提出依頼
9 月	前期看護研究サポート中間確認の結果報告 2024 年度後期看護研究サポート実施報告
10 月	後期看護研究サポートの募集締め切り（10/2 締め切り、1 件申込） 研究チームと教員のマッチング
12 月	後期看護サポート状況の開始確認の実施 後期看護研究サポート中間確認の結果報告
2 月	前期看護研究サポートの実施報告書提出依頼 次年度のチラシ配布について提案 看護研究サポート実績報告書 前期）（2 月末締め切り）
3 月	看護研究サポート実績結果報告

2）事業の実施状況

・ 前期・後期ともに全件が順調に実施されており、運営上の大きな問題はなかった。学会発表や論文執筆、研究計画・倫理審査書類作成支援など、十分なサポートが提供することができた。一方で、2024 年度後期終了時に、サポート対象者から面談時間や連絡体制に関する課題についての指摘があった。詳細は「次年度の課題」で後述する。

3）課　題

・昨年度と比較して、応募者数が少なく周知方法に工夫が必要となる。

・看護研究サポート教員は、原則として研究支援者の立場で関与しており、共著者や共同演者とはならず、謝辞にその支援内容を明記する方針とした。一方で、オーサーシップの詳細な取り決めについては明文化しておらず、今後の継続的な検討課題としている。

・サポート教員と応募者との間で指導時間の認識にずれが生じた事例があった。教員は実際のサポート（面談時間）以外にも原稿や資料の確認等に相当の時間を要しており、その点について応募者の理解を得る必要がある。また、多忙な状況下におけるメール中心の連絡体制やスケジュール管理を含む支援体制にも一部課題が認められた。コミュニケーションツールや支援体制の在り方については今後の継続審議事項とする。

6. 昭和生涯学習センター共催講座

担当：飯田美沙

「昭和生涯学習センター共催講座」は、昭和区との共催で行っている事業であり、本年度で 11 回目である。市民は大学という普段入ることの出来ない場で、専門的で先進的なことを低額で学ぶことができ、大学としては、学生以外にも学びを提供するという地域貢献ができる事業である。

１） 事業実施の経緯

時期	内容
4 月	昭和生涯学習センター担当者と講座開催方法の検討 （実務は名古屋市教育委員会　生涯学習課が担当） 企画テーマと講師案の検討
5 月	会場の予約と会場下見・打ち合わせの日程調整 昭和生涯学習センター担当者へテーマ・講師案について相談・意見を依頼 講師との交渉開始（メール・電話で検討） 講座のねらい、コマタイトル・コマ毎のねらいを整備 テーマ、講師、開催日時の決定 知の広場掲載依頼
6 月	名古屋市へ企画表を提出（昭和生涯学習センター担当者）
7 月	企画表（昭和生涯学習センター担当者）を受け取り
8 月	広報、参加者募集開始（昭和生涯学習センター担当者） 講座案内のチラシデータ（昭和生涯学習センター担当）を受け取り
10 月	講師への依頼書発送（昭和生涯学習センター担当者）
11 月	会場の臨場確認（昭和生涯学習センター担当者と共に使用教室等）
1 月	参加者抽選（昭和生涯学習センター担当）後の人数把握
2 月	講座の運営開始（2/6、2/13、2/20、2/27） 第 1 回公開講座実施報告
3 月	第 2-4 回アンケート結果確認・講師フィードバック確認 次年度以降の運営方法案提示(3/17 会議) 看護地域連携センターホームページに開催報告掲載 全学ホームページに開催報告掲載

2）事業の実施内容

令和 7 年度後期昭和生涯学習センター事業として、「100 歳まで元気でいるために～今日からできる健康長寿の秘訣～」をテーマとする全 4 回の講座を実施した。第 1 回は公開講座であり、参加者は 81 名であった。第 2 回～4 回目は現地学習（受講料：900 円）で、

定員 60 名のところ 91 名の応募があった。各回の受講者は、当日欠席者等もあり、50 名（第 2 回）、55 名（第 3 回）、53 名（第 4 回）となった。

開催日時	内容	講師
2 月 6 日 14:00-16:00	安全に手術を受けるための健康管理といたみの管理	加古英介（名古屋市立大学大学院医学研究科・教授）
2 月 13 日 14:00-16:00	活動的な生活をおくるためのフレイルチェックと運動	稲垣里奈（名古屋市立大学病院リハビリテーション技術科理学療法士）
2 月 20 日 14:00-16:00	「睡眠」との上手な向き合い方	今泉源（名古屋市立大学大学院看護学研究科・助教）
2 月 27 日 14:00-16:00	健康長寿をかなえる社会的つながりの力	井上高博（名古屋市立大学大学院看護学研究科・准教授）

3）参加者アンケート結果

主催者である昭和生涯学習センターが実施した参加者アンケートの主な結果は、以下の通りであった。

第 1 回目の公開講座は、受講者 81 名にアンケート用紙を配布し、81 名から回答があった（回収率 100%）。講座の内容は、「たいへんよかった」「まあまあよかった」と答えた人が 76 名（93.8%）、講座の満足度も、「たいへん満足」「ほぼ満足」と答えた人が 79 名(97.5%)であった。以下、受講者の感想・意見（一部）を掲載する。

・「専門的でありながら日常生活との結びつきが理解でき、興味深かった」「根拠の大切さ

を改めて感じた」（2 件）
・「説明がわかりやすく、ゆっくりした話し方で理解しやすかった」（1 件）
・運動・体重管理・口腔ケアなど、薬に頼りすぎず生活習慣を整えることの重要性を再認識したとの意見（2 件）
・医療や麻酔の進歩、高齢期の手術リスクへの関心、アレルギーや口腔ケアの話題が「興味深かった」との感想（2 件）

第 2～4 回目の現地学習は、第 4 回目の受講者 53 名にアンケート用紙を配布し、53 名から回答があった（回収率 100%）。講座の内容は、「たいへんよかった」「まあまあよかった」と答えた人が 51 名（96.2）、講座の満足度は、「たいへん満足」「ほぼ満足」と答えた人が 49 名(92.5%)であった。以下、受講者の感想・意見（一部）を掲載する。
・多方面からの講座内容は、これからの生活に役立つことばかりです。
・高齢者の受講者には、ほとんど聞いたり、体験してきた一般的な話であったと思います。この次のステップについて知りたかったので、専門的でわからなくても次の勉強の機会になるので次回もよろしくお願いします。
・参考になることが多くて良かった。
・健康に毎日を元気に生きるためにいろいろ役立つことがありました。
・わかりやすくてユーモアがある講演でした。

4）課　題

昨年度に引き続き、名古屋市教育委員会、昭和生涯学習センター、看護学研究科担当者の役割分担を一覧化し、5 月に相互確認を行った。なお、昭和生涯学習センターについては今年度より新たな担当者体制となったが、事前の情報共有および担当者間の密な連絡・調整により、円滑に運営できた。

会場については、今年度、看護学部棟 308 講義室および 301 講義室を使用した。看護学

部棟 3 階までの案内表示を掲示するとともに、適所に人員を配置したことで、参加者をスムーズに誘導することができた。また、会場からトイレが近接しており、利用面での支障は認められなかった。

308 講義室には段差があるため、安全対策として会場前方からの入場を促し、転倒予防に努めた。例年とは異なる会場での実施であることに加え、受講者の定員数も増加したが、大きな混乱はなく、全体として円滑に運営することができた。

7. 認知症カフェ

担当：久保田正和

認知症の方が、住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、本人同士の仲間作りや生きがい支援、家族の介護負担軽減、認知症症状の悪化予防、地域住民への啓発等を目的とする。名市大が運営する特徴として認知症の研究者が参加すること、学生が参加することで、地域住民との交流や健康に関する啓発活動を通して、地域と大学との信頼関係を構築し、地域住民や地域の多職種専門職者と顔の見える関係づくりを進める。

1）場所

鳴子 CHC センター（名古屋市緑区鳴子町）

2）開催日時

月に 1 回、13:30-15:00、2025 年度の開催日は以下の通り

5 月 9 日（金）、6 月 13 日（金）、7 月 11 日（金）、8 月 8 日（金）、9 月 12 日（金）、10 月 20 日（月）、11 月 14 日（金）、12 月 1 日（月）、1 月 9 日（金）、2 月 13 日（金）、3 月 13 日（金）

3）対象

近隣地域住民、認知症当事者、専門職など

4）内容

・月に 1 回、基本的には第二金曜日に開催し、毎回約 15 名が参加した。学生が参加することもあり、参加者の満足度は高い。

・お茶を飲みながら参加者同士で自由に会話する時間を過ごす。スタッフも同席する。

・専門家が認知症に関する話題提供をする。
・希望があれば個別相談を行う。
・参加者同士で会話する時間も多く、仲間作りの場にもなっている。
・独居の高齢者からは「一人暮らしなので、今後が不安」「認知症になったときにどうすればよいか心配」といった声も聞かれ、地域で相談できる場の重要性が再認識された。
・運営スタッフは認知症の研究者であり、専門的な知識を持っている。個別相談もある。

例：5 月 9 日（金）初回

自己紹介をしながら、参加者との会話や様子を見守り、参加者が安心して過ごせる雰囲気づくりを行った。参加者からの質問を受け付けながら、久保田が質問に回答し、双方向のやりとりを通じて理解を深める時間を設けた。認知症の専門的な質問も多かった。休憩を挟み、近くの参加者同士で認知症に関連する話題を中心に自由に会話する時間とし、スタッフも同席しながら参加者間の交流を促した。

例：6 月 13 日（金）

スタッフは参加者との会話や様子を見守り、参加者が安心して過ごせる雰囲気づくりをした。久保田がスライドを用いて認知症について説明し、適宜質問に回答し、理解を深める時間を設けた。会場では机を 2 つのグループに分けて配置した。一方のグループは顔見知り同士で会話が盛り上がる様子が見られた。もう一方のグループには一人で過ごされる方がいたため、スタッフが積極的に声をかけて交流を促した。

例：7 月 11 日（金）

看護学研究科天野先生より、健康維持を目的とした食生活の工夫についてお話しいただいた。特に、日常生活の中で無理なく取り入れられる栄養管理の工夫や、食材の管理のポイントなどが紹介され、参加者の関心も高く、質問も多く寄せられた。フリータイム時に受付シートで相談希望を記載した参加者に対して、スタッフが個別に声をかけ、静かな場所で話を聞いた。閉会時、久保田より、受付シートに「相談したいこと」を記入いただくことで、個別相談にも応じられる旨を案内した。

例：12 月 1 日（月）

センター長の開会あいさつ後、薬学研究科の堀先生の自己紹介を行った。参加者の希望を確認し、お茶を提供した。最近のニュースについて久保田センター長と参加者の方々で話を行った。1 名の個別相談があり、久保田センター長が対応した。相談内容は、最近認知症ではないかと心配になっているとのこと。話を聞くと加齢による物忘れは多少あるものの、生活に支障はない。人と関わることも少ないとのことで、このような認知症カフェに参加することは良いことですと伝えた。この日は IPE 教育の地域活動で、医、薬、看、リハの学生合計 10 名が 3 か所に分かれて認知症予防のためのレクリエーションを行った。

5）課題

・天候に左右されるため、終了時間の調整や早めの案内など、柔軟な対応が必要である。初めて参加される方は緊張しやすい場でもあるので、会場の雰囲気づくりとして、BGMを流したり、スタッフが積極的に声をかけるなどして、参加者がリラックスしやすい環境づくりをする必要がある。

・参加者から「認知症カフェで取り上げてほしい内容」を聞き取りテーマ設定すると満足度が高い。一方でお茶を飲んで参加者同士で話をする時間も大切である。バランスが重要である。

・参加者は平均して 15 名程度が参加されている。これ以上参加者が増えると会場のスペースが手狭になる可能性があるため、今後の対応について検討が必要である。

Ⅲ　今後の課題

令和 7 年度もこれまで継続してきた従来通りのプログラムを中心に運営を進めてまいりました。

臨床家による看護職を対象としたなごや看護実践セミナーについては、11 件のセミナーを企画し開催しました。今年度の全セミナーの参加者数は 91 名であり、昨年度の 54 名と比較して大幅に増加しました。理由としてインスタグラムやフェイスブック、HP による広報活動の充実と、各セミナーの内容が丁寧で分かりやすいため、高い評価が得られ続けていることが大きいと考えています。次年度については、引き続き、関心の高いテーマ設定、広報の強化に加え、大きな試みとして受講料を無料にします。多くの看護職が参加でき、満足してもらえるセミナーの開催を目指していきます。

看護研究のすすめについて、今年度は研究の個別相談を「出張！研究の個別相談」に変更しました。昨年度課題に挙げた「個別相談される方の多くは病院の看護師であるため、勤務の都合上平日に個別相談への参加が難しい」ことから新たに取り入れた変更点です。相談内容は学会発表に向けた相談など、以前より高度な質問が増えた印象があります。看護研究基礎セミナーは、受講者の評価が高い事業ですが、参加者が想定よりも少ないため、次年度は実践セミナーと同様に受講料を無料にして開催する予定です。「出張！研究の個別相談」は引き続き同じ形態で実施する予定ですが、実施回数については 6 つの附属病院に希望を取り設定します。

地域住民を対象とした活動は、今年度も盛況であり、地域住民のニーズが的確に捉えられた事業であったと考えます。今年度は新たに認知症カフェを開設しました。まずは無事に 1 年間開催できたことにホッとしております。毎回 15 名程度の参加者があり、高齢者の居場所として地域に貢献できていると感じています。次年度以降も、継続できるようテーマの設定など工夫を重ねていきます。地域連携セミナーは 2 年続けて子どもと保護者を対象とする事業を行いました。高齢者だけでなく次年度以降もさらに幅広く地域住民の皆様の期待に応えられるよう、事業の充実を図ります。

今年度も対面開催や zoom を用いた講義など様々な方法でセミナーを行いました。配信は遠隔地からの参加が可能である一方、配信トラブルがあるなど一長一短です。今後もそれぞれの開催方法のメリット・デメリットを踏まえ、各々の事業にとって適切な開催方法を見極めて、参加者数の増加を図っていきたいと考えております。

今後も地域社会の発展に貢献できるよう努力して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

令和７年度看護地域連携センター運営委員会

センター長　久保田正和（名古屋市立大学大学院看護学研究科）
運 営 委 員 飯田　美沙（名古屋市立大学大学院看護学研究科）
池田　　崇（名古屋市立大学医学部保健医療学科）
石川　裕子（名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院）
井上　高博（名古屋市立大学大学院看護学研究科）
今福輪太郎（名古屋市立大学大学院看護学研究科）
大橋　麗子（名古屋市立大学大学院看護学研究科）
岡　　亜澄（名古屋市立大学医学部附属リハビリテーション病院）
桂田　久子（名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院）
熊谷　千景（名古屋市立大学医学部附属西部医療センター）
松井　幸子（名古屋市立大学病院）
森田　　麗（名古屋市立大学医学部附属東部医療センター）
山吹　美貴（名古屋市立大学病院）
事 務 職 員　小林真理子、中川実佳

名古屋市立大学看護地域連携センター
〒467－8601
名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄１番地
TEL＆FAX　052(853)8042
http://www.nagoya-cu.ac.jp/nurse/center/